

藤 沢

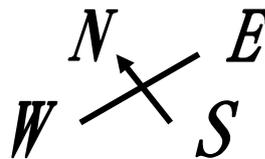
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2019年 1月1日

第296号



主
な
記
事

- ・みんなの消費生活展開催
- ・武田薬品漏洩事故7年門前行動
- ・福島原発事故の対応で省庁に要望
- ・小笠原の海#2

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

2019年 今年の課題は

新年あけましておめでとうございます。

昨年は台風、地震や猛暑など類を見ない災害に見舞われたました。台風による豪雨は地球温暖化の影響であることは周知のとおりです。昨年12月、何とか地球上の気温を1.5℃までの上昇に抑えるために、ポーランドでCOP24（国連気候変動枠組み条約会議）が開かれました。その中身は合意までに大変な議論がなされたと聞きます。

日本では原発57基のうち9基が稼働し、再稼働を目指す人とそれを許さない人々が綱引きを続けています。安倍首相が外交で原発を売り込んだ先の国々はことごとく中止になりました。福島原発事故で思い知ったはずなのになぜ売込みするの？と言いたくなります。原発の放射性廃棄物最終処理場はないのです。

また、日本国憲法も壊される危険な事態になってきました。戦後73年間一度も戦死者を出さなかったのは憲法9条があるからです。戦争に使う兵器を爆買いする日本の国はどうなってしまうのか…心配です。

2016年4月から電力小売が自由化され、続々と新しい電力会社が生まれています。家庭の電気を選ぶには、原子力発電所や石炭火力発電所からではなく、再生可能エネルギーの、大規模な生態系や自然環境・景観の破壊がされず、持続可能性への配慮を十分に行っている発電所から調達することを前提としている会社を選ぶことが大切だと思います。東京電力に見切りをつけ、そのような会社に切り替えていく決断をしてみようではありませんか。太陽光パネルの安全性や蓄電池システムへの不安が残る部分もあるとは思いますが、より安全な使い方を模索しながら自然エネルギー、水素エネルギーへの転換を図っていく事が大切だと思います。九州電力の太陽光発電の出力制限は原発政策の表れであり国策として自然エネルギーにすべきだと思います。

さて、「藤沢エコネットニュース」が今年5月に300号を迎えます。25年前、産声を上げて環境問題を取り上げ、その後、毎月欠かさず続けてこられたのはひとえに読者・会員の皆様のご支援によるもので感謝いたしております。内容についても不十分な点がありますが、ニュースを通して知っていただくことを使命とじて続けています。今後も読者の皆さまと一しょに充実した紙面となるよう心掛けていきたいと思ひます。身近な環境破壊や開発、公害、騒音など数々ありますが、何と云っても地球温暖化は待たなしの状態、藤沢でできる対策も含め紙面に反映できればと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。(日比 遥)



みんなの消費生活展(第51回) 「くらしフェスタ藤沢」開催

2018年11月10日、藤沢市と共催のみんなの消費生活展が開かれました。今回で51回目となり、会場は湘南台市民センターで行われ、元気いっぱいなキッズダンスでオープニングしました。

21団体の展示を見学しながらクイズに答えるスタンプラリーで景品の「かわうそサブリ」をお土産に、抽選会で「かる鴨米」をゲットする人もありと賑わいました。

ワークショップでは、子どもも大人も楽しめる遊びや心身の健康に役立つセラピーなども提供されました。また、多くの場所で子どもたちの歓声が聞こえ、かまぼこ板の積木のタワー作りでは、高く積み上げる子どもたちに周囲の大人たちの声援も飛び交いました。



ワークショップ魚釣りゲーム

一方、主会場では2回のキッズダンスの合間を縫ってミニ講座が行われました。子どものスマホの扱いや家庭でできる簡単な防災など、身近な情報が丁寧に説明され、ご近所の物知り博士からレクチャーを受けているようで心地よいものでした。



展示風景

また、福島の子どもの保養報告会では集まる人も多く、熱心に耳を傾けた後質疑応答の場面もあり、関心が高いことが分かりました。

年齢の幅の広い人たちが、共感したり、認め合いながら自由に学び遊べる場は、笑みの絶えない空間が広がっていました。もっともっと多くの親子が足を運び、参加団体増え、さらに豊かで楽しい生活を目指していけたらと思います。
(大須賀陽子)

武田薬品漏えい事故7周年 湘南ヘルスイノベーションパーク門前抗議行動

遺伝子組換え実験廃液漏えい事故から7年を迎えて、2018年12月3日武田問題対策連絡会は、事故7周年門前抗議行動を行いました。



旧研究所は湘南ヘルスイノベーションパークと名称を変え、組織も大幅に変わりました。様々な会社がパークに入り、現在26社がひしめき、当初の創薬研究一本の静謐な研究所ではなくなりました。今後200社を目指すといひます。

漏えい事故をおこした、いわゆる「配管集積一括滅菌システム」は依然として使用され、研究が行われています。巨額な資金投入するM&Aは再三再四行いますが安心・安全のための「研究室ごとのオートクレーブ使用の滅菌システム」などの改善はしていません。

複雑化した新しい組織の研究活動の管理責任は武田薬品が責任を持って行うと三者連絡会議でも表明していますが具体的な説明は皆無です。徹底した情報公開を強く求めます。

また、稼働後7年をすぎてもバイオハザード対応の周辺住民を含めた「避難訓練」は一度も行われていません。有事の際は、住民は何処に？ どのように？ 避難することになるのでしょうか？！ 事前の訓練が必要であることは言うまでもありません。

(武田問題対策連絡会 福岡秀治)



ふくしまっ子支援・保養団体が 国と省庁交渉

2018年11月28日に神奈川県内の福島原発事故被災者を保養支援する15団体(いのち神奈川)が国会の関連5省庁に質問・要望書を提出し省庁交渉を行いました。近年この時期に毎年要望書を提出しています。

国からは11名が出席し、いのち神奈川参加者は10名と紹介衆議院議員阿部とも子と山崎誠そして秘書2名が参加しました。質問・要望と回答の概略を紹介します。

◆質問事項

- ① 平成29年度「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」の適用実績及び平成30年度の途中経過
- ② 31年度の「ふくしまっ子事業」の継続・予算化進捗状況
- ③ 子どもたちの健康状態
- ④ 30年度除染予算要求額(避難区域とそれ以外の区域別)と29年度各市町村における除染実施状況(フォローアップ除染を含む)、汚染土壌の中間貯蔵施設への運び出し状況、飛散防止策

◆要望事項

「原発事故子ども・被災者支援法」を遵守し、保養を国の制度に位置付けてください。

- ① 31年度「ふくしまっ子事業」の予算増額と県外の保養受け入れ団体の申請も可能にしてください(文科省)
- ② 保養の申請団体が使いやすいように「ふくしまっ子」の現行制度をもっと柔軟にしてください。また、福島県外各自治体への協力要請も呼び掛けてください。(文科省)
- ア 6泊7日以上では利用できない団体が多いので 4泊5日以上としてください。
- イ 1歳以上の自然体験・交流活動に限定せず、乳幼児を伴うすべての親子の心身のリフレッシュにも広げてください。
- ウ 公的施設の無償・減免の制度化、施設の長期滞在可能化などを図ってください。
- エ 交通費負担が大きいので、昨年度までのように交通費補助分は活動日 @ 2000円に戻してください。
- ③ その他の要望事項
- ア 甲状腺検査で経過観察とされた子どもたちのフォローを確実なものとし、漏れのないように県民健康調査の実績に加えるよう福島県にご指導ください。

(文科省・環境省・厚労省)

イ 学校健診を用いた検査を継続させ、全員が受診できるようお取り計らいください。

ウ 原発事故当時中学生・高校生だった子どもたちの受診率低下が続いています。受診率向上のための広報を徹底させてください。

エ 事故当時18歳以上だった住民等への検査も行ってください。

② 子どもの立ち入るところは空間線量とともに土壌汚染測定も行い、ホットスポットの箇所を除染してください。測定の日常化、継続化、新たなホットスポットの追加除染作業を徹底するよう各自治体に指導してください。なお空間線量の測定は地上1mという大人基準が基本となっていますが放射線への感受性が高いとされる子ども基準で測り除染の判断をしてください。(環境省)

③ 強制避難者向けに留まらず、自力避難者への高速道路交通費補助を続けて下さい。(国土交通省)

④ 現在設置されているモニタリングポストは放射線量の変化を知る手段として今後とも有効です。撤去しないでください。

⑤ 福島県の年間被ばく線量の限度を20ミリシーベルトと設定していますがこれを撤回してください。一般公衆年間追加被ばく限度は1ミリシーベルトであり今後この基準に戻り復興政策を進めるようにしてください。

◆回答(一部)

○平成29年度 ふくしまっ子支援事業の実績と30年途中経過の件(文科省)

ア 平成29年度補助件数:5件 目的:自然体験活動 県外の行き先:千葉県、京都府、兵庫県2件、島根県、熊本県 補助対象者:104人 補助額:2,782,000円

イ 平成30年度11月20日現在補助件数:4件 県外の行き先:千葉県、東京都、京都府、兵庫県2件 補助対象者:96人 補助額:2,046,000円

○ 子ども自然体験活動費は福島県が1割、国が9割出費しており、福島県の規定により、県外の団体は不可。

◆感想 5省庁の担当者に直接、各団体の活動や困っている実情を訴えることができました。しかし回答は冷たい表情で、一部検討するとのことでしたが、全体として前向きな回答は得られませんでした。(青柳節子)

小笠原の海 #2

写真は父島「釣浜海岸」という兄島との瀬戸に面したビーチ。多様性に満ちた素晴らしい造礁サンゴが観られます。



(父島釣浜水中 水深3M 2018.5)



(父島釣浜ゴミ 2018.5)

もう一枚はその海岸、沢山のプラスチックごみ。特に瀬戸内海の蠣の養殖筏で使われているプラスチック管がここでも無数に見られました。毎年何億と言うこのプラスチック管(豆管と呼ばれる)が、瀬戸内の海から世界中の海に広がっていると言われています。これらが波や太陽光線等によって砕け、やがてマイクロプラスチックとして漂っているのです。

やがて、「海がプラスチックに支配される日」が来るかもしれません。(武本匡弘)



放射能測定値 (市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 ($\mu\text{Sv/h}$) 地上 50cm

12/27 湘南台郵便局前歩道	0.066
12/27 城南信用金庫前歩道	0.063
12/24 モールフィル駐車場	0.043

ECONET INFORMATION

▲「海から見る地球」～プラスチックだらけの海～
 武本匡弘さん (環境活動家 日本サンゴ礁学会会員)
 「市民からの提言」～消費者・事業者・国が出来ることは?～
 中井八千代さん (環境カウンセラー)
 1月26日(土) 藤沢名店ビル6階Cホール 17:00-19:00
 参加費:800円(資料代等) 小中高生300円
 主催 パパラギ海と自然の教室
 電話申込 0466-26-0088



▲「生きものの恵みをいっぱい感じるまち藤沢に」
 2019年1月19日(土)午後1時30分～4時
 場所 日本大学生物資源科学部
 講師=涌井史郎氏(東京都市大学特別教授)ほか
 先着300人 無料
 申込み・問合せ/1月11日(金)までに電話 fax で
 みどり保全課 ☎0466-25-1111 内線 4353、
 FAX 0466-50-8421

▲気候変動を考える
 地球温暖化の将来予測とリスク
 講師 江守正多さん
 2月5日(火) 14:00-16:00
 場所 神奈川県民ホール大会議室 参加費 無料
 主催/申込 神奈川県 fax045-210-8952

▲藤沢エコネットから
 ◆学習会「地球温暖化防止のために
 ～地産地消エネ 藤沢のこれから」DVD上映
 「激変する世界ビジネス “脱炭素革命” の衝撃」
 を観ます
 1月26日(土) 10:00- 市民活動センターにて
 ◆会員募集 年会費・購読料→2000円
 ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)
 当座預金 0046501 77 77 ネット
 ◆事務局会議 1月8日(土) 14:00～プラザむつあい

《編集後記》穏やかに新年が明けた。この穏やかな気候が年間続く事を願うが、地球温暖化の現状はそうはいくまい。少しでもできる努力:ごみの減量、エアコンの温度設定等省エネ対策等々に努めたい。26日のエコネット学習会に是非参加を。エコネットニュースは5月に25年を経て300号を迎える。環境情報発信に努めてきたが、少しは役に立ったのだろうか。(A)